

第 I 部 研究の概要

1 研究の目的

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力，主体的行動力，構想力，そしてコミュニケーション能力の育成に向けて，国語科，地理歴史科，公民科，数学科，理科，外国語（英語）科の学習活動について，学習到達目標を明確にしたパフォーマンス課題及びルーブリックを作成し，評価を行う。この評価手法の妥当性・信頼性を高め，生徒の資質・能力の向上を図るために実践的な調査研究を行う。

1年目は，理科及び外国語（英語）科を研究対象とした。2年目の本年度からは，研究対象を共通教科の6教科に拡充し，それぞれの教科の特性を生かした評価手法に関する研究を実施することで，高等学校における教育の質の向上を目指す。

2 研究の実施状況

(1) 研究の組織

県教育委員会高等学校教育課には「評価手法検討会議」を，総合教育センターには「高等学校における多様な評価手法に関する研究会」を設置し，研究校5校と連携して実践研究を行う。各研究校には校内研究委員会を設置し，年間計画及び具体的な評価場面や方法について検討の上，実践している。また，研究授業・研究発表会を他校にも公開し，研究の経過報告と成果の普及を図っている。

(2) 実践研究の実施状況

ア 評価手法検討会議の開催

（年間3回）

名古屋大学大学院 柴田好章准教授を座長として，大学の顧問，県産業労働部，高等学校教育課，総合教育センター，研究校の委員が参加した。

第1回会議（平成26年7月14日）では，本事業のねらい及び全体計画の共通理解を図り，各研究校の計画について協議をした。

第2回会議（平成26年11月21日）は，総合教育センター研究発表会における部会発表の場を兼ね，研究の進捗状況を公開で報告した。センター研究発表会全体として465名の参加があり，本研究の部会には159名が参加した。

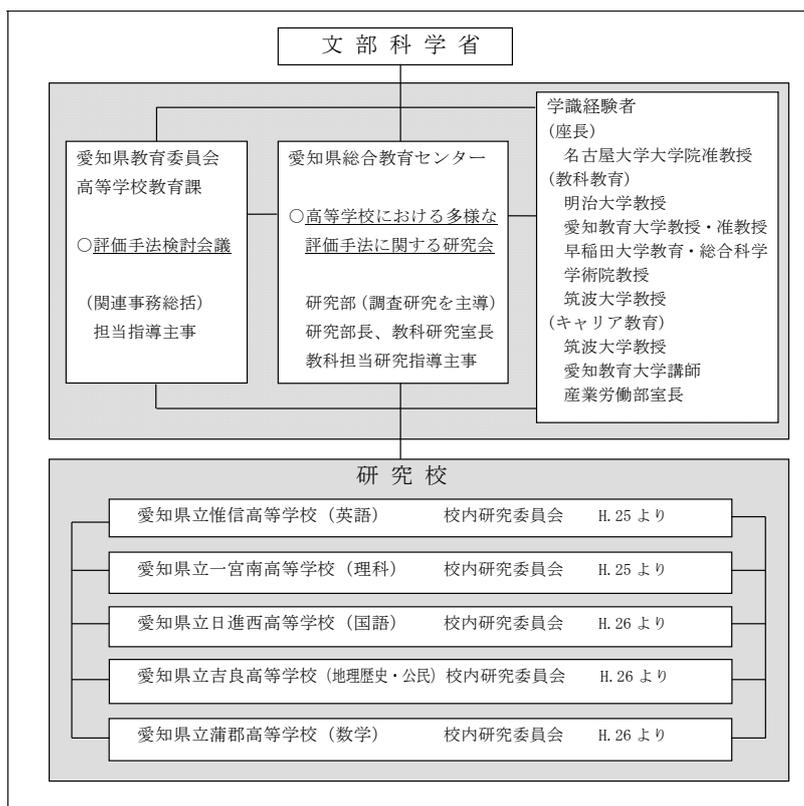
第3回会議（平成27年1月28日）では，本年度の成果と課題を共有し，来年度の計画と重点目標について協議した。

イ 高等学校における多様な評価手法に関する研究会の実施（年間5回）

総合教育センター所員と研究校の委員が，大学の顧問から指導・助言を受けて，各教科の具体的な単元におけるパフォーマンス課題及びルーブリックの作成とパフォーマンス評価の実践について協議した。

本年度の各研究校共通の留意点は，①パフォーマンス評価を単に「学習の評価」とするのではなく，課題に取り組むこと自体が学習経験として意味をもつような「学習としての評価」とすること，②各研究校の生徒の現状を把握し，目指す生徒像に向けた生徒の成長を図ること，③キャリア教育の視点を持ち，高校卒業後にも生きる資質・能力を伸ばすこと，等である。

【平成26年度研究組織図】



ウ 愛知県立惟信高等学校の実践（英語・2年目，明治大学 尾関直子教授による指導）

「外国語表現の能力」を中心とした英語によるコミュニケーション能力を評価対象として，第1・2学年においてスピーキングテスト及びライティングテストの形式で，ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を実施している。評価の妥当性・信頼性を高めるだけでなく，学習指導の過程でもルーブリックを効果的に活用するための方策を研究している。

また，高校3年間の学習到達目標であるCAN-DOリストを年間学習指導計画及び単元ごとの指導計画へと反映させるとともに，ルーブリックにも関連付けて指導と評価の一体化を図った。さらに，一回限りのテストによらない評価（プロセス・ライティング，ポートフォリオ等）についても研究し，実践を試みた。公開研究授業・研究発表会（平成27年2月5日）には，県内外から38名が参加した。本年度の主な実践場面は次のとおりである。

(ア) スピーキングテスト

「外国語表現の能力」のうち「話すこと」の評価を行うために，第1学年の「コミュニケーション英語Ⅰ」で各学期に1回ずつ，第2学年の「コミュニケーション英語Ⅱ」で1・3学期に1回ずつスピーキングテストを実施し，ルーブリックを用いて評価を行っている。各学期のスピーキングテストはそれぞれ20点満点の試験として扱い，評価結果を成績に反映させている。

(イ) ライティングテスト

「外国語表現の能力」のうち「書くこと」の評価を行うために，第1学年の「英語表現Ⅰ」で各学期に1回ずつ，第2学年の「英語表現Ⅱ」で1・3学期に1回ずつライティングテストを実施し，ルーブリックを用いて評価を行っている。各学期のライティングテストはそれぞれ20点満点の試験として扱い，評価結果を成績に反映させている。

エ 愛知県立一宮南高等学校の実践（理科・2年目，愛知教育大学 平野俊英准教授による指導）

観察・実験や探究的な活動での「思考・判断・表現」と「観察・実験の技能」を評価対象として，生徒のレポートや自己評価を，「関心・意欲・態度」及び「知識・理解」との関わりを踏まえたルーブリックにより評価している。本年度は，「物理」「化学基礎」及び「化学」の3科目で実践し，生徒の活動場面が多くなるような課題を作成した。公開研究授業（平成27年1月26日）には，20名が参加した。

本年度の実践場面は次のとおりである。

(ア) 物理実験：運動とエネルギーに関する検証実験

(イ) 化学実験：水素を過不足なく200ml発生させるには

(ウ) 物理実験（小課題）：単振り子の長さとの関係の関係を調べる

(エ) 化学実験（小課題）：中和滴定の実験による身近な食品の分析

(オ) 物理実験：熱効率を上げる方法を考案する

(カ) 化学実験：水溶液の正体を探る

オ 愛知県立日進西高等学校の実践（国語・1年目，早稲田大学教育・総合科学学術院 町田守弘教授による指導）

古典作品の読解において，登場人物の心情や作者の意図を理解する力と，他者の意見及び自分の意見を比較・検討してより合理的な解決を導く力とを，評価対象とした。教科書の本文を基にグループで脚本を作り，実演及び相互評価を経て，よりよい脚本に書き換えることをパフォーマンス課題とし，実演によって明らかになった解釈の違いを比較・検討して，より説得力のある脚本に書き換える過程を，ルーブリックにより評価している。公開研究授業・研究発表会（平成27年1月21日）には，県内外から74名が参加した。

本年度の実践場面は次のとおりである。

(ア) 授業実践：第3学年「古典」『枕草子』「古今の草子を」

(イ) 授業実践：第3学年「古典」『史記』「荊軻」

(ウ) 授業実践：第2学年「古典B」『源氏物語』「若紫」

(エ) 授業実践：第3学年「古典」『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』

(オ) 授業実践：第2学年「古典B」『大鏡』『道長、伊周の競射』

カ 愛知県立吉良高等学校の実践(地理歴史・公民・1年目, 愛知教育大学 土屋武志教授による指導)

「倫理」の授業において、生徒の自主性を向上させ、自律心を育むことを目指し、定期考査等では測ることが困難であった「批判的思考力」や「意思決定力」も評価対象とした。モラルジレンマ教材等を題材としたパフォーマンス課題を作成し、先哲の思想を根拠とした意思決定の場面を設け、ルーブリックを基に評価した。公開研究授業・研究発表会(平成27年1月13日)には、56名が参加した。本年度の実践場面は次のとおりである。

(ア) 授業実践：第2学年「倫理」「自己実現と幸福」大災害に直面した際に取りべき道徳的な行為

(イ) 授業実践：第2学年「倫理」「現代の諸課題と倫理 地域社会の変容と共生」地元を走る鉄道の存廃に関する意見表明

キ 愛知県立蒲郡高等学校の実践(数学・1年目, 筑波大学 清水美憲教授による指導)

数学の有用性を実感させることを目指し、「関心・意欲・態度」及び「数学的な見方や考え方」を評価対象とした。「数学I」と「数学A」の「課題学習」において、日常生活に関連のある題材によるパフォーマンス課題を作成し、ジグソー法を取り入れたグループ学習により解法を考えさせ、ルーブリックを基に評価した。公開研究授業・研究発表会を開催予定である(平成27年3月9日)。

本年度の実践場面は次のとおりである。

(ア) 授業実践：第1学年「数学I」「数と式」ジグソー法を取り入れた全員参加の学習活動

(イ) 授業実践：第1学年「数学A」「場合の数」グループ学習での取組を評価する

(ウ) 授業実践：第3学年学校設定科目「数学探求D」「確率・数列」ルーブリックによる評価の明示

(エ) 授業実践：第1学年「数学A」「確率」「関心・意欲・態度」を評価する

(オ) 授業実践：第1学年「数学I」「2次関数」グループ活動の成果を評価する

(カ) 授業実践：第1学年「数学I」「三角比」実生活への有用性を認識させる

3 本年度の研究の成果と課題

研究校の実践から得られた成果と課題の概要を以下に記す。

(1) 愛知県立惟信高等学校(英語)の実践から

ア 生徒への効果

- ・学習到達目標をルーブリックの形式で示すことにより、学習の指針が明確になり生徒の学習意欲が向上している。また、日々の授業では言語活動のねらいを理解して、積極的に取り組むようになった。
- ・第2回スピーキングテスト及びライティングテスト後に実施した第1学年生徒へのアンケートには、「友人と一緒に練習することができ、楽しく準備ができた」「テストのおかげで、英語を話すこと(書くこと)の大切さに気付いた」「話すことに自信が付いた」「英語を使うことで、初めて気付くことがあった」「(テストの事前指導の段階で)英語を書くというプロセスが大切なのだと分かった」という回答が見られた。

イ 教員の意識の変化

- ・ルーブリックには、「学習の指針」としての側面と「評価基準」としての側面がある。ルーブリックを評価場面だけでなく、指導場面においても活用することにより、学習到達目標を意識した指導と評価の流れをつくることが可能になった。特に、自己評価・相互評価のためのルーブリックを授業プリントに掲載したことにより、しっかりとした目的意識をもって言語活動に取り組ませることができるようになった。
- ・ルーブリックを教員同士で協力して作成し、活用するという取組を進めるに当たり、教員間でコミュニケーションをとる機会が増え、結果としてチームワークが向上した。今後も学年、学校として一体となり、指導と評価の改善に取り組んでいきたい。

ウ 評価の信頼性と妥当性

- ・評価の妥当性については、測りたい力を的確に測ることができるかという点を常に意識して、パフォーマンステストの計画立案とルーブリックの作成を行ってきた。具体的な取組としては、類似した内容のテストを事前に一部の生徒を対象に実施し、その結果を基にパフォーマンス課題やルーブリックを修正した。このような取組により、評価の妥当性について十分に検討した上で、当該学年全体のパフォーマンステストを実施することができた。
- ・評価の信頼性を確保するために、次のような工夫をした。まず、事前に幾つかの解答例を評価者全員で採点し、評価基準のイメージを共有した。さらに、頻出する解答例については、評価者同士で随時打ち合わせを行い、評価基準の共通理解を図った。さらに、テスト後に評価結果を再検討できるよう、スピーキングテストではインタビューやスピーチの様子をICレコーダーで記録したり、ライティングテストでは生徒の解答をコピーして保存したりした。このような取組により、評価の信頼性を高めることができていると考える。

エ 今後の課題

- ・パフォーマンステストに向けての指導やテスト結果の評価を教員の共同体制で行っているが、負担は小さいとは言えず、作業の効率化が課題となっている。また、評価結果の効果的なフィードバックの仕方やポートフォリオの活用方法については、継続して検討する。

(2) 愛知県立一宮南高等学校（理科）の実践から

ア 生徒への効果

- ・授業中のコミュニケーションが活発化し、学習内容の有用性を感じて実験に取り組むようになった。自然現象への興味・関心を高め、学習で得た知識を日常の文脈に即して活用できるようになった。
- ・定期考査では成績が振るわなくても、実験においては課題（速度、高さ、濃度など）に対する解答を正しく求め、目標を十分達成できた生徒がいた。これは、ペーパーテストにおける誤りではあまり振り返りをしない生徒でも、実験などのパフォーマンステスト課題は体感的な取組であるため、予想する結果と異なったときに、自らの課題として受けとめ、課題解決に向けて主体的に取り組んだことが一因である。これらの課題は、生徒の興味・関心を高め、物理や化学の知識が、実際に活用できるものだとして生徒が体感することにもつながっている。

イ 教員の意識の変化

- ・生徒に教えるというより、実験を通してどのように気付かせたり考えさせたりするかという点を、強く意識するようになった。その一方で、知識・理解を高めたり深めたりする授業の大切さも実感するようになった。つまり、「教えたことをどのように生徒に活用させるか」という点を教員が意識することによって、基礎基本の習得をパフォーマンス課題に取り組むときの土台となる力につなげていこうと留意するようになった。

ウ キャリア教育としての効果

- ・キャリア教育が目指すものは、社会人、職業人としての自立であるが、そのために取り組むべき課題を明らかにし、解決することを目指した。本研究のパフォーマンス課題では、生徒たちが苦手としていた、既習の内容を組み合わせて未知なる問題に取り組むことや、内に秘めていた自分の考えや意見を発信する機会を定期的に設定してきた。これは正に生徒の自立に向けた能力を育てる一面をもっており、キャリア教育としての効果もあったと考えている。また、教員もそのことを実感するようになった。

エ 今後の課題

- ・書く、話す、まとめる等の活動を平素の授業でも取り入れることや、考察の仕方を生徒が具体的にイメージできるような発問をすることが必要である。さらに、生徒の実験結果を統計的に分析することにより、ルーブリックを改訂して評価をすることで、より妥当性のある評価につなげたい。

(3) 愛知県立日進西高等学校（国語）の実践から

ア 生徒への効果

- ・生徒が主体的に授業に取り組むようになった。古典の脚本化や実演、相互評価についても、繰り返すうちに、短時間でねらいを達成するようになった。
- ・実践後に「古典の授業はただ文を読むだけではよくわからないけど、内容や、その言葉に隠された意味を考えると、現代につながる部分もたくさんあり、興味深かったです。昔の日本の文化にふれることもできてよかったです」と感想を記すなど、「昔の人と今の人の考え方の違い」や「現代につながる部分」があることに気付く生徒が多く見られた。

イ 教員の意識の変化

- ・評価とは教員が全てを数値化し、評定に反映させなければならないものだと考えていたが、全てを数値化する必要はなく、教員の指導及び生徒の活動の改善に資するものを区別して考えればよいことが分かった。
- ・教科担当の教員が連携するとともに、他学年や他教科の教員も研究授業等に参加しており、校内での研究の広がりが期待される。

ウ 今後の課題

- ・パフォーマンス課題とルーブリックの妥当性を明らかにする手だてが必要である。

(4) 愛知県立吉良高等学校（地歴・公民）の実践から

ア 生徒への効果及び評価の結果例

- ・公民（倫理）の実践において、ルーブリックに基づいてパフォーマンスを評価した。その結果、読解力（先哲の思想解釈）及び論理的思考力（導き出した結論の整合性）の2項目について、約4分の1の生徒がA評価（3段階評価）となり、生徒の全体像を把握することができた。ワークシートの記述から思考が深まっていく様子を個別に読み取ることもできた。
- ・2回目のパフォーマンス課題では、9割を超える生徒の記述量が大幅に増加し、興味・関心をもち自らの意見を表現しようと努力していることが十分伝わってくる記述ばかりであった。「自ら課題に取り組むことができる自主性と他人に流されない自律心をもった生徒」に成長していると感じられる。

イ 教員の意識の変化

- ・2回の研究授業と一年間の研究活動を通し、授業は、教員のパフォーマンスの場ではなく、生徒の学びの場であると改めて学んだ。生徒個々の潜在能力や意欲をどのように出させるかについて、創意工夫をすることが教員の役目であると思い知った。
- ・他教科の教員も巻き込んでパフォーマンス課題の作成に当たることができた。将来的には全校を挙げた取組となる可能性を感じた。

ウ 今後の課題

- ・ルーブリックを精緻にすると生徒のパフォーマンスの幅を狭めるおそれがあり、一方、大まかに記載すると評価の信頼性が低下することを実感した。生徒の実情に合致したルーブリックづくりのための研究と実践経験がいっそう必要である。

(5) 愛知県立蒲郡高等学校（数学）の実践から

ア 生徒への効果

- ・日常生活に関連のある題材でグループ学習を行うことで、生徒の主体的な活動が見られた。学年全体に同一の指導ができたことで、生徒の取組状況にもよい影響を与えた。
- ・パフォーマンス課題の作成については、数学の有用性を意識した課題設定ができたが、生徒に実感させるためにはさらに工夫が必要であった。ジグソー法を利用した授業展開については、3つの学習内容を組み合わせて課題が解決した瞬間に、生徒からは「そういうことか」という声が上がった。複数の学習内容を組み合わせて活用することが、問題解決に対して有効な手段になることを意識させることができた。

イ 教員の意識の変化

- ・数学科全体で本研究に取り組んだことにより、多くの意見を取り入れて工夫されたパフォーマンス課題を設定することができた。評価についてもさまざまな想定に基づいたルーブリックを作成することができた。また、多くの評価結果のデータから課題及びルーブリックの問題点も知ることができた。

ウ 今後の課題

- ・ルーブリックが曖昧であったり、実態に合っていなかったりと不十分な点が見られた。特に「関心・意欲・態度」については、試行錯誤の段階である。

4 今後の取組予定

(1) 評価手法検討会議及び評価手法に関する研究会の継続実施

- ・研究校間の連携を深め、教科の特性を踏まえたパフォーマンス評価の在り方を異なる教科の視点を含めて検討するとともに、各研究校内の取組が他教科にも波及することをねらい、会議及び研究会を継続実施する。
- ・総合教育センターの「小中学校における評価手法に関する研究（道徳）」及び「高等学校における道徳教育の推進の在り方に関する研究」と連携し、教科外の評価手法についても研究する。

(2) 研究成果発表会の開催及び研究成果報告書の発行

- ・総合教育センター研究発表会及び各研究校の公開研究授業・研究発表会を開催し、成果の還元を図る。また、研究成果報告書を発行して成果の周知を図る。
- ・平成28年度以降も、総合教育センターにて研究を継続し、研究発表会以外に各種研修講座等により研究成果を還元する。

(3) 研究校の計画

研究校5校、6教科での取組を継続する。計画の概要を以下に記す。

ア 愛知県立惟信高等学校（英語）の計画

- ・パフォーマンステストの実施とルーブリックを活用した評価を全学年で実施し、各学年における指導と評価、フィードバックの在り方を研究する。また、ALTの視点を取り入れてルーブリックを作成し、評価の妥当性を高める。さらに、3年間にわたる取組を通じた教員と生徒の変容を調査・考察する。

イ 愛知県立一宮南高等学校（理科）の計画

- ・研究対象の科目を物理・化学・生物の3科目とし、より幅広くパフォーマンス課題を作成するとともに、ルーブリックを作成し、評価の妥当性を高める。また、「教員による評価」と「生徒の自己評価・相互評価」を有機的に生かした指導法を開発する。

ウ 愛知県立日進西高等学校（国語）の計画

- ・研究対象を国語総合の現代文分野に広げ、「話す・聞く」及び「書く」領域においてパフォーマンス評価を導入し、生徒同士が言葉で伝え合う力の向上を図る。古典の脚本化・上演の取組も継続する。

エ 愛知県立吉良高等学校（地歴・公民）の計画

- ・今年度の公民科での実践を踏まえ、次年度は公民科での取組を継続するとともに、地理歴史科の授業においてもパフォーマンス課題を通じた歴史解釈に取り組ませ、生徒の自主性や自律心の向上を図り、ルーブリックによる評価を試みる。

オ 愛知県立蒲郡高等学校（数学）の計画

- ・逆向き設計により単元を組み立て、学習到達目標に基づいたパフォーマンス課題を作成する。パフォーマンス課題は数学の有用性を実感できるものとする。また、課題学習の成果をできるだけ容易に評価できるルーブリックを作成するなど、評価方法を再検討することにも重点を置く。

5 その他

(1) 委員一覧

・大学からの有識者

氏名	所属・職名	主な役割分担
藤田 晃之	筑波大学人間系・教授	評価手法検討会議の指導・助言
柴田 好章	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授	評価手法検討会議座長
尾関 直子	明治大学国際日本学部・教授	外国語（英語）科指導・助言
平野 俊英	愛知教育大学教育学部理科教育講座・准教授	理科指導・助言
高綱 睦美	愛知教育大学教育学部学校教育講座・講師	キャリア教育指導・助言
町田 守弘	早稲田大学教育・総合科学学術院・教授	国語科指導・助言 （平成26年度より）
土屋 武志	愛知教育大学教育学部社会科教育講座・教授	地理歴史科・公民科指導・助言 （平成26年度より）
清水 美憲	筑波大学人間系・教授	数学科指導・助言 （平成26年度より）

・愛知県、愛知県教育委員会事務局

氏名	所属・職名	主な役割分担
吉田 和裕	愛知県産業労働部・産業人材育成室長	評価手法検討会議助言
福島 宏	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐	評価手法検討会議助言
加藤 文彦	愛知県教育委員会高等学校教育課・主査	数学科の助言
栗木 晴久	愛知県教育委員会高等学校教育課・指導主事	国語科の助言
堀田 庸平	愛知県教育委員会高等学校教育課・指導主事	地理歴史科・公民科の助言
山脇 正成	愛知県教育委員会高等学校教育課・指導主事	事業担当者 理科の助言
井上 猛	愛知県教育委員会高等学校教育課・指導主事	外国語（英語）科の助言
小塩 卓哉	愛知県総合教育センター・研究部長	調査研究の代表
米津 明彦	愛知県総合教育センター・教科研究室長	調査研究の総括 外国語（英語）科の調査研究
杉浦 義之	愛知県総合教育センター・企画研修室長	地理歴史科・公民科の調査研究
小崎 早苗	愛知県総合教育センター・研究指導主事	国語科の調査研究
近藤 哲史	愛知県総合教育センター・研究指導主事	数学科の調査研究
米津 利仁	愛知県総合教育センター・研究指導主事	理科の調査研究
岩月 迅美	愛知県総合教育センター・研究指導主事	理科の調査研究
河野 健治	愛知県総合教育センター・研究指導主事	外国語（英語）科の調査研究

・愛知県立惟信高等学校

氏名	所属・職名	主な役割分担
栗本 整	愛知県立惟信高等学校・校長	惟信高等学校の研究総括 外国語（英語）科の調査研究
織部 秀明	同・教頭（英語科）	同校校内研究委員会運営
宮田 剛	同・教諭（英語科主任）	同校研究主務者
北川 博丈	同・教諭（英語科）	同校調査研究，公開研究授業
池田 達哉	同・教諭（英語科）	同校調査研究，公開研究授業
堀口 真奈	同・教諭（英語科）	同校調査研究，公開研究授業
内藤 寛文	同・教諭（英語科）	同校調査研究
遠山 敦子	同・教諭（英語科）	同校調査研究

・愛知県立一宮南高等学校

氏名	所属・職名	主な役割分担
井中 宏史	愛知県立一宮南高等学校・校長	一宮南高等学校の研究総括 理科の調査研究
茅野 俊正	同・教頭（理科）	同校校内研究委員会運営
穂積 淳弘	同・教諭（理科主任）	同校研究主務者
中島 美幸	同・教諭（理科）	同校調査研究
宮田 慶子	同・教諭（理科）	同校調査研究，公開研究授業
辻 太一郎	同・教諭（理科）	同校調査研究，公開研究授業

・愛知県立日進西高等学校

氏名	所属・職名	主な役割分担
北角 尚治	愛知県立日進西高等学校・校長	日進西高等学校の研究総括 国語科の調査研究
有賀 誉	同・教頭（国語科）	同校校内研究委員会運営
小林 恭子	同・教諭（国語科）	同校研究主務者，公開研究授業
松浦 由佳	同・教諭（国語科）	同校調査研究，公開研究授業

・愛知県立吉良高等学校

氏名	所属・職名	主な役割分担
萩生 昭徳	愛知県立吉良高等学校・校長	吉良高等学校の研究総括 地理歴史科・公民科の調査研究
小山 信幸	同・教頭（地理歴史科・公民科）	同校校内研究委員会運営
井澤 和史	同・教諭（地理歴史科・公民科）	同校研究主務者，公開研究授業
井上 正人	同・教諭（地理歴史科・公民科）	同校調査研究
長谷川太一	同・教諭（地理歴史科・公民科）	同校調査研究

・愛知県立蒲郡高等学校

氏名	所属・職名	主な役割分担
木下 勝義	愛知県立蒲郡高等学校・校長	蒲郡高等学校の研究総括 数学科の調査研究
平井 博司	同・教頭	同校校内研究委員会運営
壁谷 勝義	同・教頭	同校校内研究委員会運営
山田 佳史	同・教諭（数学科）	同校研究主務者 同校校内研究委員会運営
澤田 将卓	同・教諭（数学科）	同校調査研究，公開研究授業
川合 仁	同・教諭（数学科）	同校調査研究
大崎 徹	同・教諭（数学科）	同校調査研究，公開研究授業
清水 誠司	同・教諭（数学科）	同校調査研究
渡辺 正憲	同・教諭（数学科）	同校調査研究，公開研究授業
太田 有亮	同・教諭（数学科）	同校調査研究，公開研究授業
花田 直秀	同・教諭（数学科）	同校調査研究，公開研究授業

(2) 会議等日程一覧

ア 評価手法検討会議

	期日及び会場	内 容
第1回	7月14日(月) 県自治センター ※第2回研究協議 会と同日午後開 催	<ul style="list-style-type: none"> ・研究概要について(研究推進組織, 実践研究のねらい・内容・計画) ・前年度の研究成果について(研究概要, ヒアリング報告, 情報交換会報告) ・各研究校の研究計画・進捗状況について ・総合教育センター研究発表会における研究成果の報告について ・各研究校における研究成果の発表会, 研究授業等の実施について ・研究成果報告書の作成について ・研究推進に向けて 筑波大学人間系教授 藤田晃之 先生 ・指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 明治大学国際日本学部教授 尾関直子 先生 愛知教育大学教育学部理科教育講座准教授 平野俊英 先生 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 愛知教育大学教育学部社会科教育講座教授 土屋武志 先生 筑波大学人間系教授 清水美憲 先生
第2回	11月21日(金) 県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センター研究発表会におけるテーマ部会において実施。
第3回	1月28日(水) 県自治センター ※第5回研究協議 会と同日午前開 催	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度事業の進捗状況について ・各研究校の進捗状況及び成果と課題について ・平成26年度研究成果の報告について ・平成27年度研究計画について ・指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 明治大学国際日本学部教授 尾関直子 先生 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 愛知教育大学教育学部社会科教育講座教授 土屋武志 先生 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 町田守弘 先生 愛知県産業労働部産業人材育成室長 吉田和裕 氏

イ 多様な評価手法に関する研究協議会

	期日及び会場	内 容
事前 打 合 せ	4月17日(木) 県立日進西高等学校 ----- 4月30日(水) 県立吉良高等学校 県立蒲郡高等学校 ----- 5月8日(木) 県立惟信高等学校 ----- 5月19日(月) 県立一宮南高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センター担当所員が各研究校を訪問, 事業全般の説明・打合せ ・高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」3年間の事業計画について ・評価手法検討会議(親会議)と総合教育センターでの研究協議会(子会議)について ・校内研究委員会の設置と研究計画の作成について ・前年度の研究成果報告書について ・前年度のヒアリング結果について ・質疑応答
第1回	5月28日(水) 県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議会の年間計画について ・前年度の研究成果について(情報交換会報告) ・各研究校の研究計画について ・指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生
第2回	7月14日(月) 県自治センター ※第1回評価手法 検討会議と同日 午前開催	<ul style="list-style-type: none"> ・各研究校の取組状況について(校内研究委員会, 研究授業等について) ・総合教育センター研究発表会部会発表について(日程案等) ・研究成果報告書について(構成等) ・教科別協議 ・指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生

第3回	10月10日(金) 県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 各研究校の取組状況について 総合教育センター研究発表会部会運営について(日程案, 当日配付資料等) 校内研究委員会(研究授業)及び研究校の研究発表会について 研究成果報告書について(様式, 構成, 作成日程等) ・教科別協議 指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 明治大学国際日本学部教授 尾関直子 先生 愛知教育大学教育学部理科教育講座准教授 平野俊英 先生 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 愛知教育大学教育学部社会科教育講座教授 土屋武志 先生
第4回	11月4日(火) 県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 各研究校の進捗状況について(資料交換) 総合教育センター研究発表会について(部会運営案, 要項案等) 総合教育センター研究発表会の合同部会リハーサル 校内研究委員会(研究授業)及び研究校の研究発表会について 研究成果報告書について ・教科別協議 指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 愛知教育大学教育学部理科教育講座准教授 平野俊英 先生 12月18日(木)キャリア教育についての講義(県総合教育センター所員対象) 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生
第5回	1月28日(水) 県庁三の丸庁舎 ※第3回評価手法 検討会議と同日 午後開催	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果報告書について 教科別協議(本年度の反省と次年度の計画について) 指導・助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 明治大学国際日本学部教授 尾関直子 先生 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 町田守弘 先生

ウ 総合教育センター研究発表会

期日及び会場	内 容
11月21日(金) 県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 大会テーマ「学校の力, 教師の力を高める」 講演「授業の質を高めるために」 東京大学大学院教育学研究科教授 秋田喜代美 先生 鼎談 東京大学大学院教育学研究科教授 秋田喜代美 先生 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 愛知県総合教育センター所長 杉浦慶一郎 第2・3・4合同部会「多様な学習成果の評価手法に関する研究」中間報告 基調提案(総合教育センター)及び各研究校からの研究概要報告 指導・助言: 愛知教育大学教育学部社会科教育講座教授 土屋武志 先生 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 第2部会(英語) 県立惟信高等学校による研究発表 指導・助言: 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 第3部会(理科) 県立一宮南高等学校による研究発表 指導・助言: 愛知教育大学教育学部理科教育講座准教授 平野俊英 先生 第4部会(小・中学校道徳, 所内研究発表) 講話及び指導・助言: 名城大学人間学部教授 宮嶋秀光 先生 第5部会(数学) 県立蒲郡高等学校による研究発表 指導・助言: 筑波大学人間系教授 清水美憲 先生

エ 研究校における研究授業及び研究発表会

会場	期日	内容
県立惟信 高等学校 [英語]	10月23日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「英語表現Ⅰ」：スピーチ原稿の作成 指導・助言：明治大学教授 尾関直子 先生
	2月5日(木) 【研究発表会】	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」 指導・助言：筑波大学教授 藤田晃之 先生 名古屋大学大学院准教授 柴田好章 先生 愛知教育大学講師 高綱睦美 先生
県立一宮南 高等学校 [理科]	7月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「物理」：運動とエネルギーに関する検証実験 「化学基礎」：水素を過不足なく200ml発生させるには？ 指導・助言：愛知教育大学准教授 平野俊英 先生
	10月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「物理」：振り子の実験によるパフォーマンス小課題 「化学基礎」：中和滴定の実験によるパフォーマンス小課題 指導・助言：愛知教育大学准教授 平野俊英 先生
	1月26日(月) 【研究発表会】	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「物理」「化学基礎」 指導・助言：愛知教育大学准教授 平野俊英 先生
県立日進西 高等学校 [国語]	6月19日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「古典」：『枕草子』『古今の草子を』…脚本化し、実演する。
	10月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「古典B」：『源氏物語』『若紫』…登場人物の会話を考え、実演する。 「古典」：『史記』『荆軻』…登場人物の心情を想像しながら一場面を実演する。 指導・助言：早稲田大学教育・総合科学学術院教授 町田守弘 先生
	12月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「古典」：『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』…脚本化し、実演する。
	1月21日(水) 【研究発表会】	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「古典B」：『大鏡』『道長、伊周の競射』…登場人物の心中をせりふに直し、実演する。 指導・助言：早稲田大学教育・総合科学学術院教授 町田守弘 先生
県立吉良 高等学校 [地歴・公民]	9月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「倫理」：自己実現と幸福…モラルジレンマ教材「大津波」を題材に、道徳的行為について、先哲の思想に照らして考察し、発表する。 指導・助言：愛知教育大学教授 土屋武志 先生
	1月13日(火) 【研究発表会】	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「倫理」：地域社会の変容と共生…地元を走る鉄道「にしがま線」を題材に、地域社会や企業にとっての幸福や正義について、先哲の思想に照らして考察し、発表する。 指導・助言：愛知教育大学教授 土屋武志 先生 名古屋大学大学院准教授 柴田好章 先生
県立蒲郡 高等学校 [数学]	7月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学Ⅰ」：数と式…「長方形の土地に正方形のタイルを敷き詰める」グループ学習
	7月上旬(複数日)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学A」：場合の数…「修学旅行の班分けについて」グループ学習
	10月上旬(複数日)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学探求D」(学校設定科目)：確率、数列…「すごろくをコインかサイコロを振って行ったら？」グループ学習
	10月22日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学A」：確率…「ポーカーゲームの役ができる確率について」グループ学習
	12月上旬(複数日)	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学Ⅰ」：2次関数…「節分の豆をいくつになるまで食べられるか？」グループ学習
3月9日(月) 【研究発表会】	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業「数学Ⅰ」：三角比…「学校内のいろいろなものを測ってみよう」グループ学習 指導・助言：筑波大学教授 清水美憲 先生 	